《第１５６号》　2010年5月創刊　　11月5日発行　2023年１１月号

姫路顕栄教会

# エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36
編集責任者　牧師・司祭　ミカエル小南　晃

## 逝去者記念月にあたり

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」（ルカ２４：１－６）

11月1日の諸聖徒日に始まる今月は教会における逝去者記念の月です。

当姫路顕栄教会では11月の第1日曜日、11月5日に歴代関係逝去者記念礼拝を行い、その後、名古山霊園に墓参に参ります。11月は教会にとってのお墓参りの時とも言えます。

### 千の風になって

「千の風になって」という、多くの人々の心を打つ歌があります。しばしば葬儀や故人を偲ぶ会で歌われます。その歌詞に「私のお墓の前で泣かないでください。そこに私はいません。眠ってなんかいません」という一節があります。そしてその後に「千の風になって、あの大きな空を吹きわたっています」、「秋には光になって、畑に降り注ぐ」、「冬にはダイヤのようにきらめく雪になる」と、とても美しい歌詞が続きます。それは死んでしまってすべてが消えてしまうわけではないという慰めのメッセージです。

### 復活の確かな宣言

この「そこに私はいません。眠ってなんかいません」という歌詞と似た響きを感じるみ言葉があります。それが冒頭の「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」というみ言葉です。

これは主イエス・キリストが十字架につけられて殺されてから三日後、イエスを敬愛していた婦人たちがイエスの葬られた墓に行きました。しかしその墓にイエスのご遺体が見当たらない。途方にくれ、悲しむ婦

## 子ども祝福式のご案内

子ども祝福式を以下のように行います。子どもたちのすこやかな成長をおぼえて祈り祝福をいたします。今年は子ども祝福式に続いて聖餐式を短い形式で行ないます。
また礼拝後はエピファニーホールでホットプレートランチによる昼食、また綿菓子やゲームなどを準備しています。参加費は無料です。どなたでもご自由にご参加下さい。

【日 時】　１１月１９日（日）１０：３０　子ども祝福式・聖 餐 式
【場 所】　姫路顕栄教会　礼拝堂　／　礼拝後はエピファニーホール

日本聖公会　姫路顕栄教会
牧師　司祭　小南　晃・教会委員会

人たちにみ使いが現れて告げた言葉です。

キリスト教の逝去者記念礼拝において、改めて覚えようとしていることはこの復活信仰であり、またこの世にいる私達と天に召された方々とは神様のみ前において常に交わりが保たれているという信仰です。

**お墓参りをするからこそ**

最初に11月は教会の逝去者記念月であり、お墓参りの時だと申しつつ、「そこに私はいません」という歌詞や「ここにはおられない」というみ言葉を引用するのは、何かお墓参りをすることに水を差しているかのように思われるかも知れません。

しかし決してそうではありません。お墓に参ることによって召された兄弟姉妹を想起するからこそ、その方々が「お墓にいるのではないこと」、「復活して永遠の命が約束されていること」、そして私たちはその愛する兄弟姉妹と「再び相見える」ことを改めて意識することになるのです。

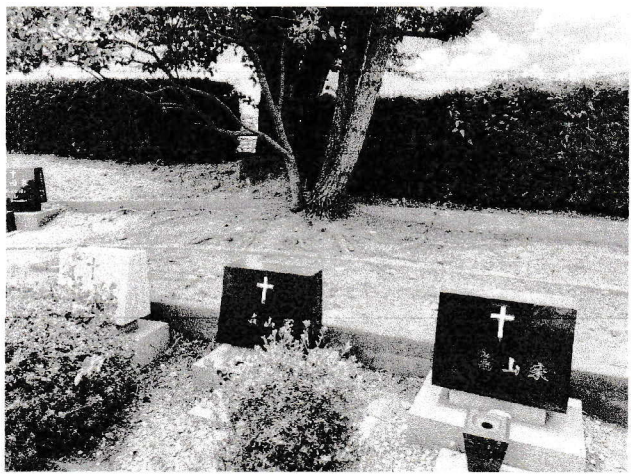
**姫路顕栄教会共同墓碑の計画**

ところで最近、「墓じまい」という言葉をしばしば聞きます。それは核家族化や少子化が進み、自分の家のお墓を今後も守り続けて行くことが難しくなっているからです。

名古山霊園の当教会信徒のお墓が集まっている一角の中央に教会が所有している三区画があります。この区画は将来、教会の共同墓碑を建立する計画のもとに権利を購入したものでした。写真の樹木の生えた場所です。現在は既に樹木は伐採されて、区画はきれいに整地されています。

最近、ご自分でお墓を建てても今後守って行けるか分らない、そうした思いから姫路顕栄教会としての共同墓碑があれば良いのにという声があり、霊園管理事務所に問い合わせて可能であることが分かりました。

そこで教会委員会として姫路顕栄教会の共同墓碑をそこに建てる方向で素案を作成し、



2024年度信徒総会に教会としての共同墓碑を建立することについての議案を提出して皆様にお諮りします。皆様のお心に留めておいて頂ければ幸いです。

この逝去者記念の時にあたり、召された方々の復活と永遠の命とを想起するためにこそ、今一度、そのような場、そのような時の大切さを覚えたいと思います。

願わくは主にありて世を去りし者の魂の、よみがえりの主の憐れみによりて安らかに憩わんことを　アーメン